

## 肝炎ウイルス検診・肝臓がん検診等実施要領が一部改正される 鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

■ 日 時 平成26年2月22日（土） 午後2時～午後3時30分

■ 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

■ 出席者 25人

川崎対策委員長

芦田・大城・岡本欣也・岸本・孝田・瀬川・西村・野坂・藤井・前田・松木・

松田・満田・村脇・山下各委員

オブザーバー：藤木鳥取市保健師、向井倉吉市保健師、中本湯梨浜町保健師

県健康政策課がん・生活習慣病対策室：村上室長、下田課長補佐、山根係長

健対協事務局：岩垣係長、田中主任

### 【概要】

・平成24年度肝炎ウイルス検査受診者数は4,777人で、受診率は2.3%、平成23年度に比べ、受診者数1,403人、受診率が0.6ポイ

ント増加した。受診者数年々増加傾向である。検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は83人（陽性率1.7%）、HCV抗体のみ陽性者は23人（陽性率0.5%）である。

また、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、平成7～24年度の18年間の受診者は124,820人、推計受診率64.9%で、そのうちHBs抗原陽性者は2,985人(2.39%)、HCV抗体陽性者は3,609人(2.89%)である。

- また、県は平成26年度に新たに取り組む肝炎対策事業として、県及び市町村（健康増進事業）が実施する肝炎ウイルス検査受診者のうち、検査の結果、陽性と診断された者に対し、初回の精密検査費用自己負担額を助成することにより、精密検査へのアクセス向上を図り、早期に適切な治療に繋げることで、肝臓がんなどの重症化予防を図る。あわせて、肝炎ウイルス陽性者が定期的に受検する精密検査の結果を記録する「かんぞうの手帳」を作成し、定期的な精密検査受診の促進を図る。

## 挨拶（要旨）

〈川崎対策専門委員長〉

鳥取県の肝臓がん検診事業は平成7年度から開始し、約20年間の経過し、事業はうまく進められている。本日は報告事項3項目、協議事項1項目が挙げられているが、充分議論して頂き、アドバイス並びに建設的なご意見を頂きたい。

## 議 事

### 1. 平成24年度肝炎ウイルス検査実績報告並びに平成25年度事業実績見込み及び平成26年度実施計画について：

山根県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

#### (1) 平成24年度肝炎ウイルス検査

平成24年度は16市町村で実施し、対象者数

203,645人のうち、受診者数は4,777人で、受診率は2.3%で、平成23年度に比べ、受診者数1,403人、受診率が0.6ポイント増加した。受診者数は年々増加傾向で、特に米子市は昨年度に比べ、受診者数が約600人も多かった。

受診者数の増加は、平成23年度より国が40歳以上5歳刻みの方を対象にした無料クーポン券事業を導入したことが大きい。

検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は83人、HCV抗体のみ陽性者は23人で、HBs抗原陽性率1.7%で、前年度と同率、HCV抗体陽性率0.5%で、平成23年度に比べ0.2ポイント減であった。HCV抗体陽性率は年々減少傾向である。

要精検者83人のうち精検受診者は59人であり、精検受診率は56.2%で、平成23年度に比べ5.1ポイント減であった。精検受診率は東部74%に比べ、中部40.9%、西部39.4%とかなり低い。精検の結果、がんは1人も発見されなかった。74.5%は無症候性キャリアであった。

受診者は60歳代が多く、HBs抗原陽性率は50歳代から70歳代にかけて高く、HCV抗体陽性率は高年齢者が高い傾向にある。

(2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は13市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

| 区 分         | 健康指導対象者<br>(人) | 定期検査受診者数<br>(人) | 定期検査結果 (人・%)  |             |             |            |
|-------------|----------------|-----------------|---------------|-------------|-------------|------------|
|             |                |                 | 慢性肝炎          | 肝硬変         | 肝臓がん        | がん疑い       |
| B型肝炎ウイルス陽性者 | 1,576          | 697             | 113<br>(16.2) | 10<br>(1.4) | 5<br>(0.7)  | 3<br>(0.4) |
| C型肝炎ウイルス陽性者 | 897            | 395             | 204<br>(51.6) | 14<br>(3.5) | 12<br>(3.0) | 4<br>(0.1) |

肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

(3) 平成7～24年度の18年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、受診者数124,820人、推計受診率64.9%である。そのうちHBs抗原陽性者は2,985人（陽性率2.39%）、HCV抗体陽性者は3,609人（陽性率2.89%）であった。

年代別でみると、平成7年～24年度平均HCV抗体陽性率は60歳以上が高く、HBs抗原陽性率は40歳・50歳代が高い傾向である。

(4) 平成25年度実施見込み及び平成26年度実施計画について

平成25年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は18市町村実施で、8,273人で平成24年度に比べ約3,500人増の見込みである。特に米子市の受診者数が昨年度に比べ約3,400人も増加する見込みである。市町村単独事業は6町実施し745人の見込みである。

平成26年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は18市町村実施で7,828人、市町村単独事業は6町実施で790人を計画している。

## 2. 平成24年度肝臓がん検診発見がん患者確定調査結果について：松田裕之委員

(1) 平成24年度肝炎ウイルス検査からは発見されたがんはなかった。

肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、がん及びがん疑いの者が24名発見され、そのうち9名は過去の検診、定期検査で既にごんと診断されていた。残り15名の確定調査を行った結果、B型肝炎ウ

イルス陽性者から肝臓癌が2名と転移性肝癌1名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が11名であった。がんでなかったものが1名であった。年齢は70～80歳代で高齢者が占めている。

(2) 平成7年～23年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、25例が確定癌であり、そのうち22例は死亡、生存中の3例のうち、2例は再発、1例は再発されていない。また、平成10～23年度定期検査確定がんが118例で、そのうち77例（他病死を含む）が死亡である。

がんと診断されてから10年以上生存されている方は、非常に稀であり、肝炎ウイルス検査で陽性の方を早期に発見し、定期検査をきちんと受診して頂くことが重要である。

## 3. 平成26年度に県が新たに取り組む肝炎対策について：

山根県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

鳥取県は、平成26年度に肝臓がん予防緊急戦略事業（案）として、次のような事業を計画している。今後、各医師会、事業主団体等関係機関に対し、事業への協力をお願いしたい。

(1) 肝炎精密検査アクセス向上事業

### ①初回精密検査受検支援（自己負担額助成）

県及び市町村（健康増進事業）が実施する肝炎ウイルス検査受診者のうち、検査の結果、陽性と診断された者が、早期に適切な治療に繋がるよう、初回に限り精密検査を受診した際の自己負担額相当額を助成する。

この事業は、来年度から実施する国の補助事業を活用し、3年間実施する予定。

## ②定期精密検査受検支援

肝炎ウイルス陽性者となった者は、病変の早期発見のため、年2回程度、定期的に精密検査を受け続ける必要がある。日常生活の留意点のほか、受検した精密検査の結果を記録する『かんぞう手帳』を作成し、市町村等を通じ陽性者に配布。適切な治療や療養生活に結び付けるためのツールとして活用して頂く。

現行の『かんぞう手帳』は作成してから10年以上経過しており、内容の見直しを行い、改訂版を作成する。

## (2) 休日・夜間肝炎ウイルス検査事業

就業者等、平日の昼間に肝炎ウイルス検査を受診することが難しい方への配慮として、保健所における夜間・休日の検査体制を構築する。(通年ではなく、夜間・休日とも年2回程度)

以上の説明に対し、委員から以下の質問があった。

・過去の精密検査未受診者は、初回精密検査受検支援対象者に該当するのか。

⇒この事業は、国の補助事業である。現時点では、国の補助事業の詳細な方法等が示されていないので不明である。国の要綱を確認した上で、適切に対応したい。

## 協議事項

### 1. 鳥取県肝炎ウイルス検診・肝臓がん検診等実施要領の一部改正について

鳥取県肝炎ウイルス検診・肝臓がん検診等実施要領の様式6「肝臓病定期検査報告書」の内容について、フォロー中の治療経過をより把握するため、様式の一部改正について、平成25年3月2日、8月17日に開催された本委員会において協議

を行った。

委員から出された意見を参考に、今回、改正案が以下のとおり示された。

- ①フォロー中の治療経過の詳細把握のため、「前回の画像検査日」欄を追加
- ②定期検査結果の超音波診断欄の文中に「又はその他の画像診断」を追記
- ③その他の検査（※プロトンビン時間）欄の削除
- ④「診断等」欄の選択肢に「C型慢性肝炎抗ウイルス療法後ウイルス消失例」を追加
- ⑤「診断等」の投薬の選択肢に「核酸アナログ製剤」を追加、「小柴胡湯」を削除
- ⑥腫瘍マーカーはAFPだけではなく、PIVKA IIも行っている。両方の検査を行う方ががん発見に有効なので、必須項目にPIVKA IIを追記

協議の結果、上記の改正案は承認された。

これ以外に、近年、GOTはAST（アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ）、GPTはALT（アラニンアミノトランスフェラーゼ）という名称に変更されつつあるので、AST（GOT）、ALT（GPT）と標記することとなった。

また定期検査の必須項目にPIVKA IIも追加することになれば、「肝臓がん検診精密検査医療機関登録実施要綱」登録基準も見直しを行う必要があるのではとの意見があり、協議の結果、今後見直しに向け検討することとなった。

### 2. その他

・瀬川委員より、本委員会は年に2回開催しているが、来年度からは協議内容により、委員会の開催回数は流動的に検討したいと考えているので、ご理解願いたいと話があった。

---

## 肝臓がん検診従事者講習会及び肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成26年 2月22日 (土)

午後 4 時～午後 6 時

場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

出席者 108名

(医師：98名、看護師・保健師：5名、  
検査技師・その他：5名)

瀬川謙一先生の司会により進行。

### 講 演

鳥取大学医学部統合内科医学講座機能病態内科学准教授 孝田雅彦先生の座長により、佐賀大学医学部 肝疾患医療支援学講座教授 江口有一郎

先生による「佐賀県『肝がんワーストワン』汚名返上プロジェクト—地域ぐるみと多職種協働—」の講演があった。

### 症例検討

松田裕之先生の進行により、3地区より症例を報告して頂き、検討を行った。

1) 東部 (1例) - 鳥取赤十字病院

満田朱理先生

2) 中部 (1例) - 鳥取県立厚生病院

永原天和先生

3) 西部 (1例) - 山陰労災病院 西向荣治先生